

歴代住職 悲願の国宝

文殊菩薩群像が重文から格上げ

安倍文殊院

国の文化審議会の答申で、安倍文殊院（桜井市阿部）の本尊、文殊菩薩群像が、重要文化財から国宝に格上げされることになった。彫刻分野の国宝指定は県内では20年ぶり。関係者から喜びの声が上がった。

彫刻分野20年ぶり 県内

国宝指定を受けるのは、鎌倉時代の仏師、快慶が1203年に作った「木造獅獅文殊菩薩像」のほか、像内から見つかった眷物と脇侍像4体の計6点。文殊菩薩像は獅子に乗った姿で、高さ約7尺は全国最大。

文殊菩薩像は快慶の代表作としてだけでなく、像内に平家の南都焼き打ちで焼

けた東大寺を復興した僧・重源の別名「南無阿弥陀仏」の銘がある。大仏殿再興の締めくくりとして像が造立されたとされることから、記念碑的な像としても高い評価を受けた。

植田俊應貫主(54)は「国宝指定は歴代住職の悲願であり、大変光栄なこと。この話を頂いてから、心なし

か仏様のお顔がほほえんでいるように見える」と喜ぶ。2年前には仏像用のLED照明をつけた。「指定で中南和まで多くの人が足を延ばしてくれるきっかけになればうれしい」

朝日新聞紙上で「お気に入りの仏像」として文殊菩薩像を取り上げたイラストレーター、みうらじゅんさん(55)は「小学生の時から、何十回も見に行った仏像で、うれしい。大きさはもちろんだが、均整も取れており、顔もいい。なぜ国宝になっていないんだらうと思っていたので、指定は遅いくらいだ」と話す。(渡義人)

重文に6件指定

このほか、重要文化財に6件が指定され、県内の指定件数は1181件(うち国宝149件)になる。新たに指定される重要文化財は次の通り。

勝鬘經講讃図(鎌倉時代)▽東大寺の「銅造釈迦多宝如来坐像」二体(奈良時代)▽天河神社の「木造能狂言面」(室町時代)▽江戸時代)▽奈良国立博物館保管の「法華経建治二年八月四日宗性願文」八卷(鎌倉時代)▽東大寺の「新修浄土往生伝巻下保元三年六月十七日弁昭書写奥書」(平安時代)▽奈良国立博物館保管の「万昆鳴主解紙背写千卷経所食物用帳」(奈良時代)



安倍文殊院の文殊菩薩像＝桜井市阿部

法隆寺の「絹本着色聖徳太子